



平成 23 年 5 月 12 日

各 位

会 社 名 岡藤ホールディングス株式会社
代 表 者 名 取締役社長 松 井 政 彦
(J A S D A Q ・ コード 8 7 0 5)
問合せ先
役職・氏名 取 締 役 中 村 元 治
電 話 0 3 - 5 5 4 3 - 8 7 0 5

特別損失の発生および平成 23 年 3 月期通期連結業績予想の修正に関するお知らせ

平成 23 年 3 月期（平成 22 年 4 月 1 日から平成 23 年 3 月 31 日）の業績予想について、平成 22 年 5 月 14 日付当社「平成 22 年 3 月期決算短信」にて発表いたしました連結業績予想を下記のとおり修正いたします。

記

1. 平成 23 年 3 月期 連結業績予想の修正等

①通期（平成 22 年 4 月 1 日から平成 23 年 3 月 31 日）

（単位：百万円）

	営 業 収 益	営 業 利 益	経 常 利 益	当期純利益
前 回 予 想 (A)	7,411	5	149	109
今 回 修 正 (B)	6,573	△ 833	△ 895	△ 1,165
増減額 (B－A)	△ 838	△ 838	△ 1,044	△ 1,274
増 減 率	△ 11.3%	－	－	－
(ご参考)前期実績 (平成 22 年 3 月期)	6,527	△ 925	△ 958	△ 719

②修正理由

当期の商品市況は、世界的な景気回復を背景に貴金属、原油、農産物等が全般に上昇傾向となりました。国内商品先物市場につきましても、回復傾向がみられるものの、その足取りは鈍く、全国市場売買高は 63,569 千枚（前年同期比 7.2%減）となりました。

このような環境の中ではありましたが、当社グループの中核事業である商品取引関連事業の受取手数料は、主力である貴金属市場や農産物市場で、前年に比べて増加したこともあり、5,818 百万円（前年同期比 7.8%増）となる見込みであります。

その一方で、売買損益は、貴金属市場におけるディーリングでの利益などがありましたが、109 百万円の利益（前年同期比 64.5%減）にとどまる見込みであります。

また、証券市況は、南欧諸国の財政問題から停滞局面もありましたが、株価は世界的に総じて回復傾向をたどりました。国内市場も回復基調にあったものの、東日本大震災の発生により先行き不透明感が強まりました。

当社グループの証券取引関連事業の受取手数料につきましては、事業再構築への移行期間だったこともあり、45 百万円（前年同期比 62.7%減）となる見込みであります。

このほか、為替取引関連事業では、売買損益が 98 百万円の利益（前年同期比 1.2%増）となる見込みであります。

この結果、営業収益は 6,573 百万円となる見込みであり、前年同期比では 0.7%増となったものの、当初予想には届きませんでした。

一方、営業費用につきましては、7,407 百万円（前年同期比 0.6%減）となる見込みであります。この結果、連結営業損失は 833 百万円となり、連結経常損失は 895 百万円となる見込みであります。

このほか、平成 23 年 3 月 9 日付にて発表いたしました「子会社の固定資産の譲渡および特別損失の計上に関するお知らせ」にあるとおり、固定資産売却損 82 百万円を特別損失として計上いたします。

これに加えて、現在の事業環境および今後の見通しを勘案した結果、保有する固定資産に対する減損損失 87 百万円を特別損失として計上するほか、財務の健全性の観点から訴訟に伴う損失にそなえて、訴訟損失引当金繰入額 25 百万円も特別損失として計上いたします。

また、関係会社の清算による損失にそなえて、関係会社整理損失引当金繰入額 37 百万円も特別損失として計上いたします。この結果、連結当期純損失は 1,165 百万円となる見込みであります。

2. その他

上記の業績予想につきましては、現時点で入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、市場環境の変化など様々な要因により予想数値と異なる場合があります。

以 上